

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270500139		
法人名	社会福祉法人 放泉会		
事業所名	グループホーム さわらび		
所在地	大田市三瓶町池田1219		
自己評価作成日	令和3年6月6日	評価結果市町村受理日	令和3年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和3年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭に近い環境の中で、なじみの関係を作り、精神的にも安定した生活を実現し、認知症の進行を穏やかにすることを目指している。行事や外出を計画し、季節感や非日常的な生活の場を楽しんでもらうようにしている。ご利用者のできることを見つけ、その人らしく自立した生活ができるよう支援している。家族との連携を密にし、「安心感」を持って頂けるようにしている。コロナ禍で難しいが、地域密着型施設として、地域との交流、関りを大切にして事業の理解を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が代わって一年が経過。コロナ禍で規制が多い中、思うようなケアができない苦悩が多くの職員から聞かれた。ベテラン職員が多くメンバーも変わらず、利用者1名の入れ替わりのみで、身体状況も安定しており、コロナの中ではあるが、落ち着いた家庭的な雰囲気心が心地よく感じられた。感染者数が比較的少ない地域であり、山あいの広々とした自然豊かな場所でもあることから、工夫をしながら外出の機会を持つようにしている。隣接していた同法人の特老は移転したが、この地域での歴史は長く地域との関わりも大変深かったこともあり、法人全体でこの地域の介護ニーズの掘り起こしにも積極的に関わっている。今後に於いてもこの施設の特徴を生かして、認知症ケアの充実に努めていただきたい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画を作成し、その内容を皆で共有している。また、基本理念をいつも目に見える所に掲示している。	法人の理念に沿ってグループホーム独自の事業計画を作成している。ベテラン職員で入れ替わりもないが、同じ目線でケアに取り組んでいる。より一層の意識統一のため毎朝”職場の教養”取り入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に、手工芸等を出品して活動の発表の場としている。	コロナの為地域行事のほとんどが中止になった中、文化祭的な行事は小規模化して実施された為、作品展示を行い、見学に出かけている。予防事業のサロン活動で案山子を作り展示。好評の為今後もこの行事に係る予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は地元の中学校との交流や職場体験を通して認知症について理解してもらっているが、コロナ禍のため、今年ではできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、事業のサービス状況等を報告し、推進委員より伺った意見は職員間で共有し、サービスの向上に努めている。	コロナで集合しての開催ができない時期はグループホーム内で職員中心に行い結果を送付する形をとっていたが、秋からは従来に戻し開催する予定。自治会長、民生委員等地域代表及び行政の担当者の出席を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の一員として行政と連携をとっている。運営推進会議の一員として来所してもらい、助言を得ている。	コロナで集合して会議を開催できない期間を除いては、毎回運営推進会議に参加があり、専門的な助言を得ていた。介護保険の内容等に変更がないため関わる場面は限られるが、認定調査での関わりもあり、いい関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「見守るケア」に重点を置き、玄関にチャイムが鳴れば、その都度確認し、外出希望等あれば、付き添い散歩を行っている。	身体拘束のないケアを実践。身体状況が安定し精神的にも落ち着いている方ばかりの為、日々の日課で施設周辺の散歩や、できる範囲内での外出で気分転換を図っている。身体拘束防止委員会を定期に開催。内部研修も行い意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の選択、自由を制限しないケアに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に個々への支援はしていないが、勉強会等により学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り事前に見学して頂き、十分に説明し同意を得た上で契約してもらっている。また必要に応じ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書を事業所内に掲示し、法人独自の苦情対応の第3委員を任命設置している。運営推進会議の委員として家族に都合のつく度に参加してもらい意見を聞いている。	日頃の様子を写真に撮りグループホーム便りを作成し、家族関係者に送り意見を得ている。コロナで面会制限もあるため、気になることがあれば電話で様子伝えており。家族の中には手紙の行き来を続けているケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、個別の面談にて意見を聞き取り、反映・改善している。	ここ数年職員は変わらず慣れていることもあり、定期の会議でも意見を求めているが、普段から意見が出やすくなっている。上司との個別面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	バースデイ休暇を設けている。また有給休暇の利用の推進、介護職員処遇改善加算手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は規定内の研修を受講している。専門機関や法人内で主催する勉強会にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は大田市介護サービス事業者連絡協議会を退会しているが、必要に応じて市内の他事業所と連携・情報共有を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族共来所してもらい、グループホームで生活する上での不安や要望を聞き、説明、納得の上で入所して頂いている。情報は全職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に際して家族と話し合い、安心感が提供できるように努めている。担当の介護支援専門員や入所前に利用していたサービス事業所から情報を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人と情報を交換し、十分に意向を伺い対応できるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生きる」の基本方針の元、利用者と職員がお互いに協力し合い生活している。利用者と職員が一緒に台所に立ったり、また一緒に作業している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡をとり、家族も介護者の一員として意識していただくよう、働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会は玄関でビニール越しとなっている。	コロナの為ごくごく親しい関係者の面会に限られているため、以前のような関わりの機会は減っているが、感染状況を見ながらサロンに出かけたり、以前から利用を続けている美容師さんには来てもらい関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームが一つの家族という観点の元、支援を行っている。利用者同士の関係を把握し、席に配慮して。職員が利用者の媒介者となり、話題作りにも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、相談は可能であることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向、希望を尊重し、個々の生活歴や性格、得意なこと等を把握し、精神的、身体的にも安定した生活が送れるよう支援している。	全員が女性で能力的にも同レベルの方が多く、一緒に活動することを好まれるため偏りが生じないよう関わっている。好きな事をできることに繋げ、達成感を持ってもらえるよう気を付けている。	利用者個々の思いの把握に努め、より一層の個別援助計画の充実に繋げていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に際して、本人、家族、担当介護支援専門員、入所前まで利用していたサービス事業所、主治医より情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングの際、「今出来ること、出来ていたこと」を把握するように留意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の希望や要望を尊重し、また職員の気づきをケアプランに取り入れるようにしている。利用者の状態に応じて、その都度モニタリングを行い、必要に応じてケアプランを変更している。	3か月に1回モニタリングを記入し、年に1回は計画を見直すようにしている。コロナで担当者会議の開催が難しい為、電話等で様子や意見を聞き計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録を記入し、職員間での申し送り、連絡ノートを活用し、情報を共有し統一したケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一度は日曜日朝ゆっくり寝たいという希望があり、皆さんに聞いたところ賛成されたので、第3日曜日は朝寝の日になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方が地域の方なので、その方との交流を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に意向を聞いている。定期的(1回/2週間)のかかりつけ医の往診がある。歯科、精神科等の協力体制がある。	今までのかかりつけ医を継続することも、施設の協力医に変更することもどちらも可能で入所時に決めるようになっている。精神科の往診もあり、職員が同行し日頃の様子をつたえており精神面の安定に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人施設の看護師の協力を得て、夜間、早朝、緊急時に適切な看護を受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けて家族を中心に担当医、看護師、リハビリ担当、医療連携室等との連携をとり、円滑な退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアは行っていないが、やむを得ず退所の場合も、同法人内に特養があるので、状態の変化に合わせてスムーズな移動ができていますので、家族関係者の安心に繋がっている。	平均介護度も軽く身体的に安定している方ばかりなので、看取りを実施するような場面は無く、重度化に向けても法人全体で対応できるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人施設の看護師が吸引、酸素吸入等の使用ができるよう整備している。緊急時対応する心肺蘇生研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣職員が夜間の見回りを行うなど、早めの行動をとるようにしている。消火器の設置場所を再確認するなどしている。	過去に大きな地震や今年も大雨での避難指示を経験しており防災に対する意識は高い。定期的避難訓練に消火器や通報の訓練等実施したり、近隣職員による夜間の見回りや独自の雪対策も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇、接遇について、職員の意識統一を図り徹底し、質の向上に努めている。	ベテラン職員が多いがケアの基本として、声かけの仕方、他の言い方を考えるなど接遇面、処遇面で気になることがあればお互い注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添い、自己表現ができるように対応している。日々の活動も自己決定してもらっている。月1回常会を開き、自由に意見が言える雰囲気づくりをしたり、希望があれば対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々の状態やその日の状況を見ながら、その人の希望を尊重しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の意見を尊重している。理美容院の希望を聞いて、実施している。入浴時の着替え等、衣類を選んでもらっている。支援が必要な利用者には職員が助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者職員共に準備をし、職員も同じ食卓で同じ食事を摂り談笑している。食器洗い等、できる利用者にして頂いている。誕生日にはその人の好きなメニューを提供したり、季節感を味わってもらえるようにしている。	地元の野菜や取れたての魚が食べられるよう、市に出かけたり、定期的に魚を配達してもらうようにし、地産地消を実践している。女性が多く調理に関わる場面も多く、洗い物などにも積極的に参加する姿がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や、水分量を把握し、摂取量の少ない利用者には個別に促している。糖尿病のある利用者には食事量や飲み物等配慮している。バランスの取れた献立になるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。義歯は毎晩預かり、週2回は洗浄液に浸けている。施設で行われる口腔ケア研修に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握し、随時トイレ誘導している。	歩行器使用でトイレ介助の必要な方が1名。他の方は概ね自立しているため、見守りを主に行っている。夜間のみ自室でトイレを使用する方もあり、個々に合わせている。紙パンツやパットの必要な方はまとめて購入することで家族負担の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を毎日把握し、出来るだけ必要量を飲んでもらうようにしている。適度な運動の勧めや排便チェック表を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本1日おきに入浴実施している。本人の希望にて夏季はシャワー浴を実施することもある。一人ずつ順番にゆったりくつろいでもらっている。	全員女性で同じ行動を希望されるため、1日置きに全員が入る形をとっている。入浴順も平等になるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみて、随時休息してもらっている。外出後は休息をとってもらっている。日中の活動性を高め、午睡が長くならないように配慮し、夜間の良眠を促せるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の元、職員が管理している。薬は毎日職員複数で確認し合い服薬介助している。処方箋はいつでも確認できるよう専用ファイルに閉じている。薬の変更があれば職員間で連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割(食器洗い、掃除等)や得意とする作業な取り組みを実施している。作成した作品を居室や廊下に展示したり、文化祭に展示してもらい、楽しみや生きがいになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出も難しくなっているが、時々ドライブや散歩に出かけて、気分転換をしている。	コロナで制限のある中、できるだけ外に出られるように周辺の散歩を増やしたり、食材の買い出しに同行するなど、車から降りないようにして、車窓から景色を楽しめるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に、本人、家族と意向を聞き、決定している。お金を持っていないと心配な利用者には、家族と相談させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきの代読、電話の取次ぎ等行っている。グループホームだよりで日々の様子をお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには花を飾り、装飾も季節感を感じてもらえるように工夫している。テレビの音量や職員の声のトーンなど状況に応じて配慮している。家庭に近い環境を目指し冬季はこたつで集う。本人の時間を大切にしている。	山あいの静かな場所の為、気になる騒音などなく自然に囲まれ恵まれた環境にあり、季節の変化を常時感じることができる。共有スペースには掘炬燵もあり、冬場には横になりくつろげるようになっている。木目調で落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース(茶の間、ホール)での団らん、中庭は洗濯物干しや取り込みに利用。ホール入り口にも団らんスペースあり。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真を飾ったり、本人の希望でテレビやラジオを使用している。茶碗や箸、湯のみ等使い慣れた物を使用している。	居室の壁には好みの写真や、カレンダー、自分の作品等が貼られている。使い慣れたタンスやテレビ、衣装ケース等が持ちこまれているが、カーテン、絨毯等防災を求められるため、好みで部屋を整えることが難しくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで移動しやすくなっている。トイレ、浴室、廊下には手すりを設置し安全に移動できるようにしている。トイレには光センサーで自動点灯設置、玄関にはスロープがある。		